

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
龍馬情報ビジネス & フード専門学校	昭和61年1月28日	校長 中 川 隆	〒 780-0056 (住所) 高知市 北本町 1-12-6 (電話) 088-825-0077					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人龍馬学園	平成1年3月23日	理事長 佐 竹 新 市	〒 780-0056 (住所) 高知市 北本町 1-12-6 (電話) 088-825-0077					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業関係専門課程	システム工学科	平成10(1998)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	プログラマーとしての基礎能力と、SEとしての知識、技術、そして人間性を向上させることを目的とし、情報処理業界の中核となれる人材を養成する。技術、人間性ともに即戦力となれる人材を養成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、データベーススペシャリスト試験、情報処理安全確保支援士試験、ネットワークスペシャリスト試験 中退率7.4%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,570 単位時間	1,456 単位時間	1,114 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
60 人	23 人	0 人	0 %	7 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		9	人				
	■就職希望者数(D)		8	人				
	■就職者数(E)		8	人				
	■地元就職者数(F)		2	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		25	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		89	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	就職辞退者1名 (令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		0					
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.ryoma.ac.jp/rcb/system/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		2,570 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		100 単位時間					
	うち必修授業時数		2,570 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		100 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
	(B:単位数による算定)							
	総単位数		単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位					
	うち企業等と連携した演習の単位数		単位					
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを遡算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		2 人					
	計		10 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		7 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

システム工学科では、時代をリードするIT技術者を養成することを教育目的としており、情報処理関係団体及びIT関連企業役職者等を教育課程編成委員会委員に選任し、IT業界の専門性の動向、新たな技術動向に関する知識・技術について、関係者からの意見等を十分に反映して、より実践的な授業科目、授業の内容・方法の改善を図っていく方針である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。

教育課程編成委員会での審議内容を学科で共有後、学科内でカリキュラム編成会議を行う。

カリキュラム編成会議の結果を、教務総括会にて報告し承認され採用される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
加藤 稔	高知県情報産業協会	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	①
福永 龍雄	パシフィックソフトウェア開発株式会社	令和6年7月1日～令和8年6月30日(2年)	③
中川 隆	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	—
西成 和広	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	—
鳴瀧 学志	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	—
川村 剛久	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日～令和7年8月31日(2年)	—
濱渦 昇	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和7年7月1日～令和9年6月30日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 8月、2月

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月1日 17:30～18:30

第2回 令和7年2月7日 17:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「DBはWebやAI分野でも注目されているが、大企業はデータを豊富に蓄積できているので、AIでの活用方法を検討して実施できるが、中小企業はそもそもデータがない。どのようなデータを蓄積する必要があるか、データの分析をし、AIに対して、効果的に学習させるように加工を行える能力が求められる」という意見があり、DB授業内でのSQL演習により力を入れていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

最近の技術動向を踏まえ、現場に必要な知識・技術を具体的に身に付けさせるため、企業へのヒアリング等を通じて重要項目や課題を抽出し、その結果にもとづいた解決・改善内容を実習や演習内容に反映できるよう企業と連携しながら計画を進める。また実習・演習等の実施後には企業及び学生からの報告を元に、その効果を検証しながら改善・改良を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携先企業等の担当者と学校担当者の間で、授業形態やシラバスの確認を行い、また評価項目に関しては、その内容とレベルを協議し確認している。実習・演習等の期間中はどのような指導を学生が受け、どのように向上したのかを企業等の担当者から適宜、具体的な報告を受けている。また、その実効性について企業側と学校側とで具体的な検討ができるよう体制を敷いている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
システム設計	学内授業	ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。	株式会社SHIFT PLUS

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修等は本校の教職員研修規程に基づき、計画し実施する。当校が実施する研修は、①新任者研修、②管理職研修、③養成研修に分けて行われており、県内外の各科に関わる業界関係団体や、教育関係団体が主催する研修などに積極的に参加させている。研修等の参加に当たっては、校長又は部門の長が本人のキャリアや適性、意欲等を考慮し、また学校全体の状況等も踏まえ、戦略的に研修を計画している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	基本情報科目Bの解法と指導ポイント	連携企業等：	株式会社 インフォテックサーブ
期間：	令和6年8月29日、令和6年9月2日	対象：	専門学校教員
内容	近年の基本情報技術者試験に対する問題演習方法や、効果的な学習指導方針についての講習にオンラインで参加した。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	相手の参加を引き出すコミュニケーション	連携企業等：	一般社団法人REIONE
期間：	令和6年12月25日	対象：	当学園教員
内容	学生が自身の情報を発しやすい環境の構築と、教員が生徒の状態を把握しやすくする方法に焦点を当て、学生が主体的に授業に参加する手法を学ぶ。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	AIリテラシー講座	連携企業等：	株式会社サーティファイ
期間：	令和7年12月	対象：	専門学校教員
内容	AIの基礎から応用、倫理まで体系的に網羅し、安定したAI教育を実施していく為に参加する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	退学防止と心的障害を持った学生への対応	連携企業等：	人間環境大学
期間：	令和7年12月25日	対象：	当学園教員
内容	心的障害を持った学生への対応や学生の退学防止について、心理学の見地から学ぶ。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき自己点検評価を行っており、作成した資料を元に学校関係者に意見を聞き、教育活動の改善に努めていく方針である。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2)学校運営	管理運営
(3)教育活動	教育の内容
(4)学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	学生支援
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	改革・改善
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

専門性や指導力等の維持や向上のため、他県の専門学校及び情報系企業との意見交換を行った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
加藤 稔	高知県情報産業協会	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	業界関係者
来海 利明	高知県製パン協同組合	令和7年7月1日～令和9年6月30日(2年)	業界関係者
福永 龍雄	パシフィックソフトウェア開発株式会社	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	企業関係者
矢野 太久	矢野平八会計事務所	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	企業関係者
宮本 高憲	株式会社 高南メディカル	令和6年7月1日～令和8年6月30日(2年)	企業関係者
坂本 昌二	高知高等学院	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	教育関係有識者
安井 裕治	株式会社adear	令和5年10月1日～令和7年9月30日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

＜ホームページ＞・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和7年11月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と密接かつ組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者に対して、学校の教育活動、その他学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2)各学科等の教育	設置学科
(3)教職員	教員名簿
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ
(6)学生の生活支援	募集要項
(7)学生納付金・修学支援	募集要項
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ）

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和7年11月1日

授業科目等の概要

(工業関係専門課程システム工学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コンピュータ概論	コンピュータ用語の基礎や計算を学び、各種コンピュータ関連の検定に合格するための知識を習得する。	1前	156		○			○		○		
2	○			プログラミング	基本情報技術者試験、科目Bで必要となる疑似言語及び、プログラミングに欠かせないアルゴリズムの仕組み（流れ）を習得する。	1前	81		○			○		○		
3	○			C言語 I	C言語の文法や基本的なプログラムの作成方法を学ぶ。	1前	42		○					○		
4	○			システム開発	基本情報技術者試験の範囲、システム開発について開発技術、用語を理解する。	1前	26		○			○		○		
5	○			情報管理と情報戦略	基本情報技術者試験の範囲マネジメントとストラテジについて、各種技法と計算方法、用語を理解する。	1前	74		○			○		○		
6	○			アルゴリズム	基本情報技術者試験アルゴリズムの範囲の総復習と、応用情報技術者試験アルゴリズムに向けての実力アップを目指す。	1後	87		○			○		○		
7	○			データベース I	データベースの役割を理解するとともに効果的なテーブル設計手法と基礎的なSQLを実習を通して学んでいく。	1後	59			○		○		○		
8	○			パソコン演習	幅広く使用されている表計算ソフトの使用方法を学ぶ。合わせて、基本的なパソコンの操作方法も習得する。	1通	102			○		○			○	
9	○			コミュニケーション	社会人として生活をするために必要なコミュニケーションについて学習する。ワークショップを通し、問題を的確に捉え、自分の考えをまとめる能力や、考えを効果的に相手に伝える能力を養う。	1後	27			○		○		○		
10	○			簿記	簿記の基本を身につけ、全経簿記3級合格を目指す。	1後	72		○			○			○	
11	○			国家試験対策 I	情報処理技術者試験 (IPA主催) の合格を目指し、特定の製品やソフトウェアに関する学習ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる知識・技能について、幅広く総合的に学習することを目的とする。	1後	119		○			○		○		
12	○			ビジネス実務 I	挨拶、入退室、接客の基本用語、学校への電話連絡、敬語、面接用入退室について自然に感じよく実践できるよう、ロールプレイングを中心に行う。	1通	37			○		○			○	
13	○			C言語Ⅱ	プログラミング実習を通して、C言語を理解・習得していくことを目的とする。	2通	171			○		○		○		
14	○			システム設計	システム化基本検討段階における現状調査、現状分析の手順ならびにシステム設計プロセスにおける具体的なアウトプットの作成手順、更にはプログラミングおよびテストに関する知識を習得する。	2通	100			○		○		○	○	○

15	○		ネットワーク	ネットワーク、情報セキュリティに関する基礎知識や最新動向を学ぶ。また、国家試験の問題を意識して授業内で取り入れ、全体的なネットワーク・情報セキュリティ能力を向上させる。	2通	45		○		○	○				
16	○		データベースⅡ	SQL実習を通して様々なSQLを学んでいき、実践的に扱えるような技術を習得することを目的とする。	2前	38		○		○	○				
17	○		パソコン概論	Windowsパソコンを構成する各パーツの名称や役割・構造を理解し、パソコンの自作ができるよう習得する。また、トラブル対策についても机上学習する。	2後	12		○	△		○	○			
18	○		社会問題	現在社会で起こっている事件や様々な問題に対して、個人の意見を持ち、自らの考え方や価値観を論理的に思考する事で「自分の意見及び見解、改善策」を考えられるようにする。	2後	14		○			○	○			
19	○		国家試験対策Ⅱ	情報処理技術者試験(IPA主催)の合格を目指し、特定の製品やソフトウェアに関する学習ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる知識・技能について、幅広く総合的に学習することを目的とする。	2通	335		○			○	○			
20	○		ビジネス実務Ⅱ	電話応対を始め、社会人としてのマナーについて総合的なレベルアップを図る。また、チームワークを体験するワークショップを行い、積極性や協調性、対話、折衝力を向上させる。	2通	80		○			○			○	
21	○		一般常識	社会人として恥じない一般教養の習得を目的とする。	2通	42		○			○	○			
22	○		システム構築	現状調査・分析およびシステム設計等の上流工程から、プログラム製造およびシステム試験等の下流工程にいたる一連のプロセスを演習することにより実践的なシステム構築知識を習得する。	3通	207		○			○	○			
23	○		J a v a	Javaの基本的な文法および開発ツールの使いかたを習得する。また今までの開発経験をもとにしてより高度なプログラミング能力を養う。	3通	183		○			○	○			
24	○		Visual Basic	Visual Basicの基本的な文法および開発ツールの使いかたを習得する。また今までの開発経験をもとにしてより高度なプログラミング能力を養う。	3前	73		○			○			○	
25	○		ビジネス基礎	社会人として必要なビジネス文書作成能力や、テーブルマナー、冠婚葬祭などでの礼儀作法を学ぶ	3後	18		○			○	○			
26	○		国家試験対策Ⅲ	情報処理技術者試験(IPA主催)の合格を目指し、特定の製品やソフトウェアに関する学習ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる知識・技能について、幅広く総合的に学習することを目的とする。	3通	335		○			○	○			
27	○		ビジネス実務Ⅲ	ビジネス実務の集大成として、電話応対を始め、社会人としてのマナーについて総合的なレベルアップを図る。	3通	35		○			○			○	
合計				27 科目			2570 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：科目ごとの総合評価が全てC以上		1学年の学期区分	2期
履修方法：必須科目を履修すること		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。